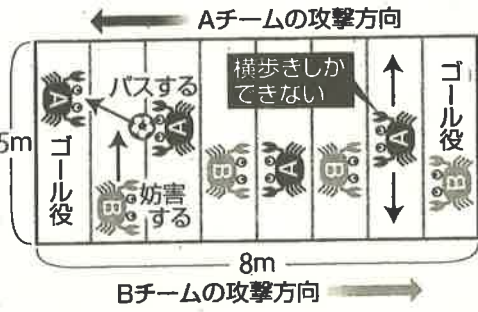


カニのかぶり物を身に着け、「ポート・カーにバル！」を体験する来場者ら（実行委提供）



シポート・カーにバル！のコート内での動き



前に歩かないで！

ゆる〜くかにポートボール

県内介護福祉士ら考案

勝ち負けよりも楽しむことを重視した「ゆるスポーツ」として、県内の介護福祉士らが、県産のカニをテーマにポートボールをアレンジした「ポート・カーにバル！」を考案した。カニのかぶり物を身に着けたり、コート内で横歩きしたりと、カニになりきるための趣向を凝らしており、関係者は「全国に広めたい」と意気込んでいる。（中村総一郎）

ゆるスポーツは、老若男女や運動の得意・不得意に関係なく、「ゆる〜く」楽しめる新ジャンルのスポーツ。ハンドボールと富山県氷見市特産のプリを組み合わせた「ハンギョボール」など、「世界ゆるスポーツ協会」（東京都中央区）が紹介しているものだけでも40種類以上あるという。

県内でも、ご当地色の豊かなスポーツを作ろうと、福祉関連9団体で組織する実行委員会がワークシヨップを主催。同協会の協力で、介護福祉士や作業療法士らが9〜10月に計3回、介護現場の交流やストレス解消につながるプレー形態などを議論し、「カーにバル！」が生まれた。

主なルールはこうだ。1チームは4人。うち1人は、幅

「インスタ映え」体験者夢中

1ト（縦5尺、横8尺）の両端のゴールに陣取り、その間に残る3人が交互に並ぶ。選手は区域内を横歩きで移動しながら、カニに見立てたボールを味方にパスし、相手チームのパスを妨害する。2分以内にゴール役に幾つボールを届けられたかで勝敗を決める。

選手はカニのかぶり物のほか、ハサミをイメージした鍋つかみを両手に着用する。ボールを5秒間持てば「ゆでカニ」というファウルを取られるなど、観客を含めて一緒に楽しめる工夫も取り入れた。今月11日に湯梨浜町で開かれた「とっとり介護フェア」で初めて披露され、実際に体験した来場者や小学生などからは「しんどくなるくらい夢中になった」「インスタ映えしそう」と好評だったという。

実行委員長で介護福祉士の大塚一史さん（48）（日南町）は「鳥取と言えはカニ。ユニークないでたちなので、見ているだけでも面白い。全国に通用しそうだ」と普及に向けて手応えを示す。ワークシヨップで進行役を務めた同協会の萩原拓也事務局長（35）も「柔らかいボールを使ったり、座ったままプレーできるようにしたりするアレンジを加えれば、お年寄りや障害者も参加できる」と提言する。

大伴家持の歌 役員書で表現

鳥取連盟展



「鳥取書道連盟役員展」（読売新聞鳥取支局など後援）が28日、鳥取市尚徳町のとりぎん文化会館展示室で始まった。写真。30日まで。今年には万葉の歌人、大伴家持の生誕1300年にちなみ、「家持の歌を書く」をテーマに46人の役員が1点ずつ出品。うち17人が四季折々の歌を1首ずつ書き上げ、1枚のタペストリーにすべてを貼り付けた合作も展示された。家持が因幡国守だった頃に詠んだ「新しき年の始めの初春の 今日降る雪のいや重け吉事」などの歌が、漢文や仮名書きで個性豊かに表現され、訪れた人たちは、さまざまな作風を楽しんでいた。

29日午後1時30分からは、鳥取市文化財団の野崎欽五参事監が、会場で家持について講演する。無料。